

あなたたちは主の言葉を聞くが、実行しない

エゼキエル書 33 : 30~33 (聖書協会共同訳)

人の子よ、あなたの同胞は、城壁のそばや家々の戸口であなたについて語り合い、一人一人、『さあ、行って、主から出る言葉が何かを聞こうではないか』と語っている。彼らは集団であなたのところにやって来る。私の民はあなたの前に座り、その言葉を聞く。しかし彼らはそれを行わない。口ではお世辞を言うが、心は自分の利益を追い求めるからだ。あなたは彼らにとって、美しい声で恋を歌う者のようだ。また楽器を上手に奏でる者のようだ。彼らはあなたの言葉を聞くが、実行しない。それがやって来るとき——確かにそれはやって来る——彼らは自分たちの中に預言者がいたことを知るようになる。」

エゼキエル書 33 : 30~33 に記されている御言葉は、私たちの信仰の姿勢に深く問いかける、非常に厳粛なメッセージです。ここに登場する人々は、**一見すると大変熱心**です。彼らは互いに声を掛け合い、「**主から出る言葉が何かを聞こうではないか**」と言って、預言者の所に集まってきます。そして実際に座って、その言葉に耳を傾けるのです。

しかし神は、その外側の姿ではなく、彼らの内面をご覧になります (→サムエル記上 16 : 7b 「容姿や背丈に捕らわれてはならない。私は彼を退ける。私は人が見るようには見ないからだ。人は目に映るところを見るが、私は心を見る」)。「**私の民はあなたの前に座り、その言葉を聞く。しかし彼らはそれを行わない**」と主は言われます。

ここに、信仰の大きな落とし穴があります。**人は、御言葉を聞いているだけで、自分は正しい道にいると思い込みやすい**のです。説教に感動し、聖書の言葉に心を動かされること自体は決して悪いことではありません。しかし、**聖書の言葉が生活の変化や従順へと結びつかないならば、その信仰は実を結ばない**のです。この箇所では神はさらに踏み込んで、「**口ではお世辞を言うが、心は自分の利益を追い求める** (口語訳：彼等は口先では多くの愛を現すが、その心は利におもむいている)」と指摘されます。つまり、**神を求めているように見えながら、実際には自分中心の思いが支配している**のです。

そして主は、預言者エゼキエルの語る言葉が、彼らにとってどのように受け取られているかを示されます。「**あなたは彼らにとって、美しい声で恋を歌う者のようだ**」と。これは驚くべき表現です。神の厳かな御言葉が、まるで美しい歌や楽しい音楽のように、“聞いて楽しむモノ”になってしまっているというのです。**彼らは確かに聞いています。しかし、その言葉に従おうとはしない。ただ心地よく受け取り、満足して帰っていくのです。**

これは、現代の私たちにもそのまま当てはまるのではないのでしょうか。

礼拝で御言葉を聞き、“**良いメッセージだった**”と感じながらも、**その後の生活が何も変わらないとするならば、私たちもまた同じ状態にあると言わざるを得ません。神の言葉は、知識として蓄えるものでも、感動として味わうだけのものでもなく、私たちの生き方を変える力を持つものです。そしてその力は、従うときに初めて現実のものとなるのです。**

最後に主は、「**それがやって来るとき——確かにそれはやって来る——彼らは自分たちの中に預言者がいたことを知るようになる**」と言われます。ここには、**神の言葉は必ず成就する**という厳粛な事実が示されています。今は軽く聞き流していても、やがてその言葉が現実となる時が来ます。その時になって初めて、“**あれは本当に神の言葉だった**”と気づくのです。しかし、その時にはすでに遅いのです。

だからこそ、**今この時、御言葉を聞いたその瞬間に、それを自分の生活にどう適用するかを真剣に考え、実行に移すことが求められています。**聞くだけの信仰から、従う信仰へ。感動で終わる信仰から、変えられる信仰へ。主は今も私たちに語っておられます。その声を、ただの美しい響きとして終わらせるのではなく、人生を導く真実の言葉として受け止めていきたいと切に思います。